

学びは常に玉川の丘に用意されています。
通信教育部で学んだ先輩を中心に、現在の仕事や地域での活躍をインタビューします。

生涯学へ第8回 小中一貫教育の公立校の教員として



中島定治 横浜市立小中一貫校 霧が丘小中学校（小学校） 教諭
2008年通信教育部で小学校教員免許取得

2003

大学時代から小学生にミニバスケットボールの指導を始め、今も続けている。その経験が教員になってから学級経営に生かされている



高校時代はバスケットボール部で厳しい練習をこなし、神奈川県大会で優勝。達成感もあり、大学でも続けるつもりでしたが、思うような部活がなく二年ほど離れていたんです。大学三年生の頃、父親が小学生にミニバスケットボールを教えていて、僕も呼ばれて指導することになりました。子どもたちは純粹で、目を輝かせて頑張っている姿を見たら、すっかりハマってしまっ（笑）。小

学生にいろんなことを教えたいと思うようになったのです。大学には小学校の教職課程がなく、卒業後に玉川の通信教育部へ入学。スタージングには全国から職種や年代も違う人たちが来るので、いろいろな話を聞くことができる。農業を



通大時代は夏期だけでなく、冬期、夜間のスクーリングにも出席した。仲間の輪が広がり、同じ志を持つ仲間とは今もつながっている

2007

2008

横浜市立港南台第三小学校に着任。個別支援学級の担任を務めた。1年から6年まで6人の児童と1年間過ごし、初めて卒業生を送った



指導も厳しくなるため、中一ギャップで登校できないケースなどが問題となっています。そのため小中教員が連携し、九年間のゴールを見据えて取り組んでいるのです。月一度、各教科で開かれる企画会があります。たとえば、小学校の算数部と中学校の数学部の先生で情報交換するのですが、「中三での到達目標からは、小六で〇〇まで確実に身につけてほしい」など具体例を聞く、意識して指導できます。算数は四年生から習熟度別に少数コースに分かれ、一番進度の遅い

小中一貫教育の良さは、学びの将来像を描けること。九年間のゴールを見すえ、そこへ向かって指導できる。

クラスには中学校の先生も補助に入り、一緒に指導してくれます。中学校で研究授業があれば、僕らも参観できます。小学校だけで教えていたら、中学校での授業の進め方や雰囲気などがわからないので、実際に生徒の反応も見える交流は貴重ですね。二年目には初めて三年生を担当しました。最初は不安でたまらなかつたけれど、算数は自信があったので、授業でクラスを引っ張っていろいろ

しながら学ぶ人もいて、僕もきつとやれると勇気をもらいました。

二〇〇八年に小学校の教員免許を取得。三月から横浜市立の小学校に臨時的任用職員として採用され、個別支援学級を受け持ちました。ダウン症や自閉症の子どもなど様々で、初めは思いがけない言動に戸惑うことも。それでも一緒に組んだ先生が一人一人に寄り添う姿から、教育の原点を学びました。

翌年、転任した小学校では算数の少数指導を担当。新任でも研究授業を行い、校長の指導を受けます。「教師は授業で勝負する」ことを教えられ、子どもの学習意欲を引き出す大切さを実感しました。三年目に着任したのが、ここ霧が

鼓笛隊と中学の吹奏楽部と一緒に演奏したり。そうした交流を通して、カッコいい先輩のようにになりたいという希望も膨らむでしょう。

地域との交流も盛んで、夏の盆踊りや秋の運動会では五、六年生と中学生の有志が集まって、「霧が丘ソーラン節」を披露します。僕も楽しく踊りました。防災訓練や植栽などの行事にも積極的に参加しています。ここで感じるのは「チーム力」の大切さ。「チーム霧が丘」は小・中のチームであり、地域との関わりも密接です。かつて僕がバスケットボールで学んだことも「チーム力」の大切さだったから、子どもたちにも教えていきたいですね。

公立の小中一貫教育の取り組み

小中一貫教育とは、小学校6年間と中学校3年間の教育課程を連携し、一貫性を持たせた体系的な教育方式のこと。従来、小中一貫校といえば私立学校や国立大学の付属小・中学校がほとんどだったが、個々の児童の発達に合わせた教育をするためには一貫して教育を行うことが望ましいとして、近年は全国各地で小学校と中学校を統合した公立の小中一貫校が開校されている。

公立の小中一貫教育の形態は、大別して3種類。

- ①「施設一体型小中一貫校」。東京都品川区で先駆けでつくられた。1年生から9年生まで一貫カリキュラムに基づいた指導をしており、大阪市や京都市などでも開設予定。
- ②近接する小学校と中学校で校舎・敷地を共有して教育を行う「併設型小中一貫校」。本文で紹介した横浜市での導入など、小中教員の協働により、小中学校で連続した一貫性のある指導を展開する。
- ③地域で結びつきの強い小学校と中学校が連携する「連携型小中一貫校」。モデルケースは東京都三鷹市など。各小中学校が連携して授業改善にあたり、合同行事をしたりして、児童・生徒が交流を深める。



横浜市立霧が丘小中学校では、算数の少数指導と3年生の担任をしている。2年続いて区の一斉授業研究会で授業をし、大きな自信となった